

館林市立第三中学校
学校だより

全校一心



～一人一人の持ち味が光る活力ある第三中学校～

2学期

◇2学期始業式◇ ～目標に向かって着実な一步一步を～

38日間の夏休みが終わりました。2学期の始業式を迎え、みんなの笑顔と頑張る姿がまた学校に戻ることを大変うれしく思います。

今年の夏は毎日猛暑が続きました。また、全国的にみると台風の影響による豪雨災害、世界でもハワイでの山火事による大きな被害がでるなど、天候や自然災害に気を配りながらの生活になったと思います。

1学期の終業式で、「休みに入り授業はないけど、心と体と頭脳の成長は止まらない。夏休みにしかできない体験や活動、また普段の生活ではなかなかできないことに挑戦してほしい」ということを話しましたが、達成感、充実感を味わうことができたでしょうか。

さて、2学期のスタートです。

3年生はいよいよ自分の進路実現に向けて、大切な時期となります。しっかりと自分を見つめ、今まで培ってきた様々な力や自分のよさを存分に発揮できる進路を選択してほしいと思います。

2年生は三中の中堅学年として、学習に励み、間近かに迫った部活動の新人大会に向けてチームをまとめ、これまでの力を発揮してください。また、生徒会活動でも中心となって活動して三中を盛り上げていってほしいと思います。

1年生は、中学校生活にも慣れ、学習をはじめ、学級の一員としての役割をさらに高め、様々なことにチャレンジしながら自分の良さを見つけ、発揮していってほしいと思います。

目指すところは違えど、それぞれの目標に向かって、「自分で限界をつくらず」「自分に言い訳をせず」「努力を楽しみ」「失敗を恐れずチャレンジ」してほしいと思います。「志あるところ、必ず道は拓ける」という言葉があります。自分の人生は、自分で切り拓くという、強い信念で進んでいってほしいと思います。

夏休み中も頑張ってくれました！

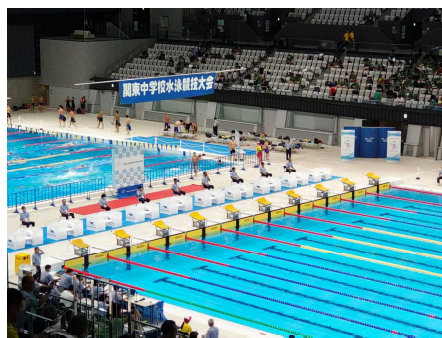
2023年の夏に燃えた3年生を中心とした三中生の各部活動。3年生のみなさん、お疲れさまでした。県大会やコンクールに出場した各競技部等の選手たちも、精一杯頑張ってくれました。

1. 2年生は、3年生から渡されたバトンを受け継ぎ、今後も頑張っていってください。

関東大会、県コンクール出場部活動等の紹介

【水泳部】

東京アクアティクスセンター会場にて
(東京オリンピック・パラリンピック会場)
リレー・個人
出場者



(男子)

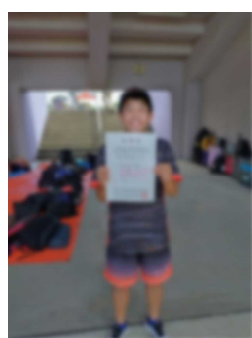
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

(女子)

□□□□

【陸上部】

男子1年100m
□□□□



【吹奏楽部】

東部地区吹奏楽コンクール
金賞受賞

第65回群馬県吹奏楽
コンクール中学生Bの部
東部地区代表出場



今後の主な行事予定

日	曜	主な行事等
28	月	2学期始業式 自転車点検
29	火	全学年復習確認テスト 部活動卒業アルバム撮影
30	水	S校時 放課後-専門委員会(最終) 身体測定(3年)
31	木	身体測定(2年)
9/1	金	身体測定(1年)
2	土	市新人大会[ソフトテニス]
3	日	
4	月	月1234水3・月5の授業
5	火	S校時 部活動なし
6	水	
7	木	
8	金	英語弁論大会審査会
9	土	市新人大会[ソフトテニス]
10	日	市新人大会[野球]
11	月	5時間授業
12	火	古紙アルミ缶回収
13	水	S校時 6校時-水害による避難訓練
14	木	
15	金	
16	土	市新人大会[バスケットボール] [バレーボール] 少年の主張県大会
17	日	市新人大会[バスケットボール] [バレーボール][野球][サッカー]
18	月	敬老の日 市新人大会[サッカー]
19	火	3年復習確認テスト⑤
20	水	S校時
21	木	学校環境衛生検査日
22	金	ENGLISH VILLAGE(2,3年)
23	土	市新人大会[野球][体操][卓球] [サッカー][陸上]
24	日	六郷地区体育祭
25	月	後期時間割開始
26	火	
27	水	6校時-生徒会役員選挙・立会演説会
28	木	
29	金	英語検定②
30	土	

第45回少年の主張 東毛地区大会 最優秀賞

『私のふるさと』 □□□□

8月19日(土)桐生で行われた東毛大会で東毛各
郡市代表19名の中で見事に最優秀賞を受賞し、
東毛代表として県大会へ！



地域の魅力向上提案 中学生10名 市長と意見交換

8月21日(月)館林市の魅力向上をテーマに住民の意見を聞くアドバイザーボードを市役所で開催し、本校代表として生徒会の□□□□さんと□□□□さんの2名が参加し、市の魅力や不足している点について多田善洋市長と意見を交わしてきてくれました。



人間にとって、成功とはいったいなんだろう。結局のところ、自分の夢に向かって自分がどれだけ挑んだか、努力したかどうか、ではないだろうか。

—岡本太郎(芸術家)—

